

東京都立大学 大学院
経営学研究科 経営学専攻
経済学プログラム

修士（経済学）

MAEC (Master of Economics)
Program

MEc Program Director

プログラムディレクターからのメッセージ



東京都立大学大学院 経営学研究科
経済学プログラム (MEc) ディレクター

田中 敬一

Back to School は多くの場合「新学期」を意味しますが、Back to school to get a degree は、大学卒業後に社会人として職に就いているものの新たな目標のために大学院を受験し入学する状況を指します。学部で学んだ経済学の知識では職場で求められるマクロな経済分析や消費者の行動分析には立ち行かず、深く体系的に経済学を学び研究者としての基礎知識や考え方・ツールの習得の必要性を感じている社会人は少なくありません。そのような専門性を求める人の声に応えるべく、東京都立大学経営学研究科では、博士前期課程(修士課程)に経済学プログラム(MEc)を2018年に開設しました。都心・丸の内ですべて平日夜間および土曜日に講義や演習を行っています。

MEcの教員は、これまで学術研究に携わり経済学や経済史に関連する分野の国際学術誌に論文を発表してきた研究者です。社会人を対象とした学びの場が東京に多く存在する中で、MEcは学術的かつ実践的な経済学の追究を使命として掲げます。具体的には、学生が経済学や経済史の学術論文を理解する力を身につけることを最大の目標として、経済モデルの作成、データの分析、経済社会の事実の検討等の演習を行い、それらを通して修士論文を作成し指導する、という機会を提供します。この過程を綿密に追及

することによってのみ、学生は国際的な水準の経済学や経済史という高度な専門性が身につけ深く理解できること、そして、それこそが大学院において経済学や経済史を真に身につけたい人びとに必要である、と考えております。

カリキュラムでは、修士1年前期にコア科目としてミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学あるいは経済史の基本を定着させ、1年後期以降に応用科目の学習や修士論文作成の演習を行う形にしています。実際にこれまで入学した学生は官公庁やシンクタンク・金融機関等に勤務する社会人のほか、大学卒業直後に進学してきた人もいます。授業で用いるテキストや演習は、世界の高度な研究を理解する上で必要だが難解ではないか、という懸念を抱いたこともありましたが、修了生たちから「勉強は大変だったが、自分たちでは到達できないレベルに到達することができ満足した」という声を聞き、私達の目標や実践に間違いはないと自信を深めています。

本プログラムは既に社会人である方だけではなく、経済学を深く学び探求してみたいと考える大学生にも門戸を開いています。将来ビジネスパーソンや経済の専門家としての活躍を望んでいる大学生にとっても、当プログラムに進学して得られる経済学の専門知識や現役の社会人とともに学んだ経験は将来の大きな糧になることでしょう。また、本格的な研究者を志向する人のために博士後期課程も設けています。

都心にあるという立地条件、高度な学術研究に携わってきたスタッフ、少人数教育による丁寧な指導、平日夜間を中心とした時間帯で働きながら学位を取得できるような環境を整備しながら研究指導に当たった経験と実績、これらの資源を持つ私達と、経済学や経済史を本格的に学びたいという志を持つ皆さんとが結びつき、私達にも皆さんにも、そして社会にとっても良い結果をもたらすと確信しています。

熱意のある皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

特徴● Characteristics

● 近代経済学と歴史からの2つのアプローチ

経済学プログラム（MEc）には経済学プロジェクトと経済史プロジェクトがあります。数理モデルを使った分析を中心とする経済学プロジェクトは理系を含む多彩な人材を受け入れます。また経済史プログラムの教員が豊富なことも特徴です。

分野：ミクロ経済学、マクロ経済学、統計・計量経済学、経済史

● 高い専門性をもつ教員による少人数教育

国際学術誌に論文を出版している高い専門性を持つ教員が、少人数の入学者にむけて演習と論文執筆を中心に丁寧な指導を行います。

● 少人数教育—演習と論文執筆が中心

少数の入学者に対して専任教員の丁寧な講義と演習が行われ、細やかな指導で修士論文の制作を行います。

● 博士後期課程への進学

博士課程へ進学すれば、さらに高度な研究と博士号取得への道が広がります（入学試験があります）。

● 東京都が設置する大学院、丸の内に立地、夜間に開講

東京都が設置する公立大学「東京都立大学」の大学院です。都民の方は入学金が半額となります。

また、社会人が学びやすいように、主に夜間に開講され、働きながら学べます。

● 最近の修士論文題目（一部）

経済学プロジェクト

2024 年度 External Debt, Bailouts and Financial Fragility（対外債務、銀行救済と金融脆弱性）

2023 年度 The Impact of Technological Progress on the Labor Market in an Aging Society

2022 年度 Financial Intermediation under Negative Interest Rates

経済史プロジェクト

2024 年度 昭和戦前期における財閥企業の株式公開と社会貢献— 1934 年三菱財閥の「転向」政策を中心に—

2023 年度 19 世紀前半イギリスにおける社会政策と地方統治機構の史的分析：ウィリアム・デイを中心とした救貧法の諸問題

Project and Curriculum ●プロジェクトとカリキュラム

経済学プログラムに入学した学生は入学時に「経済学」「経済史」の2つの教育研究プロジェクトから1つを選択し、体系的に授業を履修します。

経済学	ミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学を基礎にして、経済現象の理論分析、もしくは実証分析を行います。
経済史	歴史的事実の考察・分析や研究史の整理・批判をもとにして、経済現象を解明します。

1 年前期

経済学プロジェクトではマクロ経済学・ミクロ経済学・計量経済学を、経済史プロジェクトでは経済史概論・日本経済史を、それぞれコア科目と呼びます。1年前期は、このコア科目を学び、演習による徹底した理解を目標とします。経済学プロジェクトのコア科目に必要な数学は、入学前の MathCamp や同時開講の経済数学で学べます。また、経済学初学者のためのマクロ経済学概論・ミクロ経済学概論もあります。

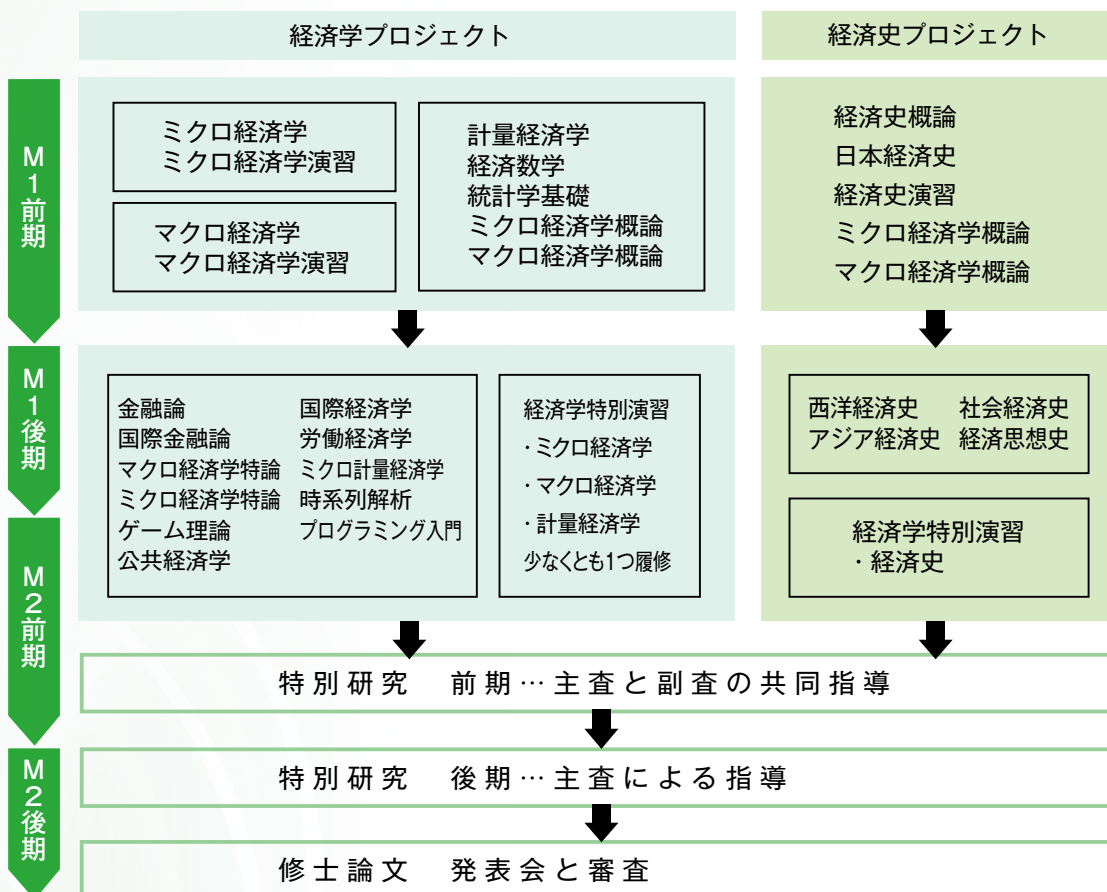
1 年後期・ 2 年前期

1 年後期では、両プロジェクト共に経済学特別演習という少人数の演習を行います。学術論文を読んで発表し、それらの論文を応用した理論モデルの作成や経済データ分析などを行います。また、1 年前期のコア科目を基礎として、経済学の様々な応用科目を履修します。

2 年

2 年次は主に修士論文の制作に取り掛かります。前期までは主査と副査の共同指導により、広い視点からのアドバイスを受けます。後期は、主査による指導で集中的に論文を仕上げます。修士論文の発表会と審査を経て、学位を取得します。

経済学プログラム カリキュラムツリー



Faculty Member ●教員紹介（2025年4月現在）

教員氏名・主な担当講義	研究教育内容と主な論文・近年の著作など
教授 飯村 卓也 ^{(*)2} ●ミクロ経済学 ●ミクロ経済学特論	需要理論、一般均衡理論、ゲーム理論などに現れる種々の均衡の性質等について研究しています。 (論文) A study on the demand and response correspondences in the presence of indivisibilities, (with Z. Yang), <i>Journal of Fixed Point Theory and Applications</i> , Vol.6, No.2, pp.333-349, 2009; Unilaterally competitive games with more than two players, <i>International Journal of Game Theory</i> , Vol. 49, pp.681-697, 2020.
教授 暮石 渉 ●計量経済学 ●ミクロ計量経済学	社会保障、家計や家族について実証分析を行っています。家族形成（結婚・離婚、出生）や教育について興味があります。 (論文) Time Preferences over the Life Cycle and Household Saving Puzzles (with Hannah Paule-Paludkiewicz, Hitoshi Tsujiyama, Midori Wakabayashi), <i>Journal of Monetary Economics</i> , Vol. 124, 123-139, 2021.
教授 田中 敬一 ●経済数学	確率解析を応用した期間構造モデル・固有関数展開による漸近展開等のファイナンス分野の研究を行っています。 (論文) A Multi-Quality Model of Interest Rates, (with Masaaki Kijima and Tony Wong), <i>Quantitative Finance</i> , Vol. 9 No. 2, pp. 133-145, 2009; An eigenfunction expansion approach for the derivation of asymptotic expansions in financial valuation problems, (with Manabu Miyamoto), <i>JSLAM Letters</i> , Vol.14 pp.25-28, 2022.
教授 松岡 多利思 ^{(*)1} ●マクロ経済学 ●金融論	貨幣理論や銀行理論を中心に研究しています。 (論文) Financial Contagion in a Two-Country Model, <i>Journal of Money, Credit and Banking</i> , Vol. 54, No. 7, pp. 2149-2172, 2022. Asset Prices and Standing Facilities in a Monetary Economy, <i>Journal of Economic Dynamics and Control</i> , 135 (February 2022): 104302
教授 脇田 成 ^{(*)2} ●マクロ経済学特論	マクロ経済の長期停滞と賃金設定の関係について研究しています。 (論文) 日本の二部料金的賃金設定ルールー名目賃金上昇の条件ー, <i>経済分析</i> , 第191号, pp. 10-34, 2016.
教授 渡辺 隆裕 ●ゲーム理論	ゲーム理論が専門です。最近では有限戦略集合のゲームの純粋戦略均衡の存在条件について研究しています。 (論文) A Choice of Auction Format in Seller Cheating: A Signaling Game Analysis, (with Takehiko Yamato), <i>Economic Theory</i> , Vol. 36 No.1, pp. 57-80, 2008.
准教授 荒戸 寛樹 ●マクロ経済学 ●国際金融論	マクロ経済学と情報の経済学について、理論研究やシミュレーションを行っています。最近では銀行行動にも興味を持っています。 (論文) Japan's Intangible Capital and Valuation of Corporations in a Neoclassical Framework, (with Katsunori Yamada), <i>Review of Economic Dynamics</i> , Vol. 15 No.4, pp. 459-478, 2012.
准教授 小方 浩明 ●時系列解析	数理統計学、特に時系列解析、方向統計学、コピュラ、経験尤度法に興味があります。 (論文) A Mixture Transition Distribution Modeling for Higher-Order Circular Markov Processes, (with Takayuki Shiohama), <i>Journal of Time Series Analysis</i> , 2024. https://doi.org/10.1111/jtsa.12803
准教授 菊地 信義 ●労働経済学	ミクロ計量経済学の手法を用いて、教育問題、親の就業と子育てや子供の発達の関係などについて研究しています。 (論文) The Effects of Gender-specific Local Labor Demand on Birth and Later Outcomes, (with Mika Akasaka), <i>Labour Economics</i> , Vol. 90, 102546, 2024.
准教授 白 映旻 ●国際経済学	国際生産ネットワークまたはGVC(Global Value Chain)分野における貿易理論の現実妥当性を計量分析手法を用いて、研究しています。 (論文) Impacts of firm's GVC participation on productivity: A case of Japanese firms, (with Shujiro Urata), <i>Journal of the Japanese and International Economies</i> , 66(101232), 2022.
准教授 森本 脩平 ●ミクロ経済学 ●公共経済学	望ましい制度の設計について検討するメカニズムデザインや社会的選択理論の研究を行っています。 (論文) Strategy-proofness and efficiency with non-quasi-linear preferences: A characterization of minimum price Walrasian rule, (with Shigehiro Serizawa), <i>Theoretical Economics</i> , Vol. 10 No. 2, pp. 445-487, 2015.

(*)1 松岡教授は2026年度にサバティカルのため講義はありません。

(*)2 飯村教授は2026年3月に、脇田教授は2027年3月に定年退職予定です。

教授

岩間 俊彦

●社会経済史

近現代イギリスの都市、階級、組織について、史料分析だけでなく、世界史的視野で研究を進めています。
 (論文) Shaping Civic Culture through Public Discussion: The Debating Societies of Birmingham, c. 1850 - c. 1890, *Midland History*, Vol. 41 No. 1, pp. 57-70, 2016.

准教授

井澤 龍

●西洋経済史

歴史的アプローチにもとづき国際課税と多国籍企業の関係について研究をしています。
 (論文) Corporate structural change for tax avoidance: British multinational enterprises and international double taxation between the First and Second World Wars, *Business History*, Vol. 64 No. 4, pp. 704-726, 2022.

准教授

金子 創

●経済思想史

経済学や経済思想の歴史、とりわけアダム・スミスよりも前の時代の言説について研究しています。
 (論文) カンティロンとチュルゴ, *経済学史研究*, 56 巻 1 号, pp. 71-88, 2014; On the Existence and Characterization of Unequal Exchange in the Free Trade Equilibrium, (with Naoki Yoshihara), *Metroeconomica*, Vol. 67 Issue 2, pp. 210-241, 2016.

准教授

小林 延人^(*)

●日本経済史

実証史学の立場から、幕末維新期の日本経済、とりわけ貨幣流通や商家経営について研究しています。
 (著書) 『明治維新期の貨幣経済』東京大学出版会、2015.

准教授

竹内 祐介

●アジア経済史

戦前日本の植民地経済や復興期・高度成長期の日本・東アジアの鉄道・海運について研究しています。
 (著書) 『帝国日本と鉄道輸送』吉川弘文館、2020. (受賞) 政治経済学・経済史学会賞 (2021 年)

(*)小林准教授は2026年度にサバティカルのため講義はありません。

修了生の声●

From Alumnae and Alumni

S.K

2021 年度入学・経済学プロジェクト
 民間シンクタンク勤務(執筆当時)

社会人の経験と経済学が融合した学びの場

私は現在、日本経済に関する調査・分析を行うエコノミストという仕事に従事しています。日々の業務で経済に触れる機会が多い反面、その動きの背後にあるメカニズムへの理解が十分でないという問題意識がありました。そこで、理論的な側面からも経済の動きへの理解を深めることを目指して MEc に応募しました。

MEc では、1 年目前期に、マクロ経済学、ミクロ経済学、計量経済学、経済数学のコースワークを中心としたコア科目を多く履修します。いずれの授業も少人数で質問をしやすいため、効率的に理解を深めることができます。後期には、自身の関心に応じた選択科目が授業の中心となります。後期の授業の進め方は、学生が最先端の論文などを読んで発表するということがメインです。学生の主体性が重要となるため、準備には多くの時間を要しますが、受け身の授業では理解したつもりになっているような部分まで細かく議論が及ぶため、論文を理解する力を飛躍的に高めることができました。また、社会人学生が多いという MEc の特徴から、理論と実際の違いなどにも議論が及ぶため、両者の橋渡しに大変役に立ちました。

少人数という特徴を最大限に生かした修論指導

2 年目は修士論文の執筆がメインとなります。1 年目の後期に読み込んだ文献やテキストが修士論文のベースとなることが多いように思います。私も例に違わず、1 年目の後期に取り扱った論文のモデルを少し拡張する形で修士論文を執筆しました。

修士論文を執筆する過程で、MEc の特徴である少人数制のメリットをとりわけ強く感じることができました。通常の修士課程では 1 人の先生が何人もの学生の指導に当たるため、1 人当たり割くことのできる時間はどうしても限られてしまいます。しかし、MEc では学生数が非常に少ないため、1 人の学生に対して、主査と副査の 2 名の先生から非常に丁寧な指導を受けることができます。実際、私の主査をご担当頂いた先生が担当していた修士の学生は私を含めて 2 名のみでしたので、非常に多くの時間を指導に割いていただきました。指導方針は先生によって異なりますが、私の場合は週に 1 回、1.5 時間程度お時間を頂き、先行研究についての議論やその拡張の方向性の相談などをさせていただき、無事に修士論文を執筆することができました。

このように MEc の充実したカリキュラムを通じて、経済の理論的な側面への理解を大いに深めることができ、この経験はエコノミストという仕事において非常に役に立っております。今後も MEc で学んだことを活かして経済に対する理解を一段と深めていきたいと思っています。

在学生の声● From Current Students

松尾 勇佑 | 2024 年度入学・経済学プロジェクト
みずほ証券株式会社

——入学の動機を教えてください。

私は現在、証券会社で内外マクロ経済を調査・分析し、機関投資家向けに情報提供を行う「マーケットエコノミスト」という業務に従事しています。コロナ禍を経て経済の構造変化がグローバルに起こる中で、その調査・分析をするにあたり、より専門性の高い学術的な知見も求められる局面が増加しておりました。そうした中、本学の経済学プログラム (MEc) では、社会人であっても、高度な経済学を少人数で学習できるようなカリキュラムが組まれていると知り、自身の身に付けたいと考えていた専門的な知見とも合致すると考えて、入学を決めました。

——入学して思うことをお聞かせください。

M1 前期には、大学院レベルのミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学といったコア科目を集中して学ぶことになり、予習・復習やレポートの準備などで多忙な日々でした。それらを学ぶ上で必要となる経済数学を含めていずれも難易度は高かったのですが、教員の方々によるわかりやすく丁寧な指導に加えて、少人数制であるがゆえの質問のしやすさや、学友同士の助け合いにも支えられました。

M1 後期には、応用科目を学びます。ゼミナール形式で行われる経済学特別演習のうち、私はマクロ経済学と計量経済学の2つに参加しましたが、コア科目から一歩進んだ専門的な知識の習得に加えて、学術論文の講読をときにはディスカッションを交えながら進められていく中で、修士論文の執筆に向けた基礎力を身に付けることができました。また、時系列分析や金融論、マクロ経済学特論といった専門科目に加えて、私がより専門的に学びたいと考えていた経済数学に関する特別講義を新たに開講いただくなど、自身のニーズに合致した非常に満足度の高い内容を学習できたと感じています。

M2 からは、入学当初より自身が取り組んでみたいと考えていた研究テーマに関する修士論文の執筆について、主査・副査の教員の方々による丁寧なサポートを頂きながら、進めているところです。

——これから入学を検討している方へメッセージをお願いします。

MEc は、社会人であっても専門性の高い経済学を学びたいとの意欲のある方にとって、そうしたニーズを充足できるプログラムだと言えます。私は入学してみて、想像よりもさらに良いプログラムだと感じたため、入学を検討している方には是非おすすめしたいです。

大野 潔 | 2024 年度入学・経済史プロジェクト
経営コンサルタント

——入学の動機を教えてください。

まず自己紹介をしますと、新卒で日本興業銀行に入行し、その後リクルート社に転職。財務部と法務部を経て10年前に独立し、いまは個人で経営コンサルティングや顧問業、講師業をやっています。また、別の大学院 MBA でコーポレートファイナンス論を教えています。

そのうえで、経済学を学ぼうと思った理由は、以下の二つです。

- ① 世間に対する洞察を深めるため…これまでの社会人経験で多くの知見を得ましたが、経験による知見はどうしても凸凹があり、網羅的・体系的ではないと考えます。学問として確立された経済学を学び、その知見から社会を見て、この社会がこうなっている理由を理解できるようになりたいと思いました。
- ② 思考力を高めるため…AI 時代が到来しても、我々の悩み事は尽きないはずです。その悩み事を解決するための思考力を、経済学という学問を修める過程で鍛えることができると考えました。

MEc プログラムを選んだのは、社会人コースなので夜間と週末で完結すること、丸の内キャンパスが私のオフィスやクライアントと近く、便利であったことが理由です。

——入学して思うことをお聞かせください。

「課題である文献や資料を読む、不明点を調べて理解する、理解したことをレジュメにまとめる、授業で教授と議論する」というのが講義の流れです。この過程を多く繰り返すことで、調べて理解するトレーニングを積むことができました。

授業は少人数で、教授と議論する時間が多く割かれています。発表・発言の順番は早く回ってきますが、それだけ成長機会を与えられたと思います。

——これから入学を検討している方へメッセージをお願いします。

歴史を学ぶということは、知識を蓄えること以上に、「なぜそうなったのか」を探り、未来の兆しを見出す力を養うことだと感じています。

私自身、経済史の学びを通じて、目の前の現象をより深く理解し、次に起こりうることを考える力が磨かれていると実感しています。現在起きている事象はすべて過去からの繋がりで生じており、次に起きる未来の事象につながっています。過去を知ることは未来を考えるための最良の出発点になります。

MEc プログラムを通じて、我々の属する社会や組織の未来像を見極める知的な力を養ってみませんか。この文章を読まれた皆さんが、この学びの場に加わってくださることを、心より祈念しております。

施設●Facilities

授業開講時間

丸の内サテライトキャンパスでは平日夜間と土曜日に開講しています。

月～金 5時限……18:20～19:50
6時限……20:00～21:30

土 1時限……10:30～12:00
2時限……13:00～14:30
3時限……14:40～16:10
4時限……16:20～17:50

PC 教室

定評のある統計解析・数式処理およびデータマイニングのソフトを揃えた PC が準備されており、講義や自習に活用できます。また、NEEDS-FinancialQUEST などの経済・金融・企業財務に関するデータベースも利用可能です。

図書室利用

各講義に用いられるテキスト・参考文献を中心とした和洋専門書のほか、国内外の多数のジャーナルが開架されています。本学南大沢キャンパスおよび他大学所蔵の文献についても、貸出申し込みを行うことができます。そのほか、図書室では EBSCOhost (Business Source Elite)、Science Direct、Wiley Online Library、Web of Science などの各種オンライン・ジャーナルやデータベースが利用可能です。膨大な学術文献を検索、閲覧、ダウンロードして研究をすすめることができます。

Entrance Examination — 入試関連情報 —

詳細については、必ず公式の募集要項でご確認ください。

募集要項は下記の URL または QR コードのサイトでご覧いただけます。

募集定員

経営学専攻 50 名（経営学プログラム・経済学プログラム・ファイナンスプログラムの合計）経済学プログラムでは 10 名程度を予定しています。募集定員に満たない場合でも入学を許可しないことがあります。

選抜方法

- ▶ 選抜は 9 月と 2 月に実施。
- ▶ 提出された書類と本研究科で実施する学力試験（筆答試験、口頭試験）の結果により総合的に判断して決定します。

納付金等（予定額）

入学科：東京都の住民…… 141,000 円
その他の者…… 282,000 円
授業料（年額）…… 520,800 円

AccessMap



東京都立大学
丸の内サテライトキャンパス
東京都千代田区丸の内 1-4-1
丸の内永楽ビルディング 18 階
TEL. 03-6268-0521

入試関係のお問い合わせ先

東京都立大学管理部 | 文系学務課 経済経営学部教務係

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

TEL.042-677-1111（内線 1715、1716）

入試関連等の情報は、ホームページにて随時更新して参ります。

<https://www.biz.tmu.ac.jp>

スマートフォン・タブレット
の方はコチラから

